

ニュージーランドにおける コミュニティラーニングセンターの形成過程

—フィールドデングの事例を中心にして—

神 田 嘉 延

(1999年10月15日 提出)

The Formation Process of Community Learning Centre in New Zealand :
Mainly on The FEILDING Community Centre

Yoshinobu KANDA

目 次

はじめに

第1章 コミュニティセンターの創設過程と農業高校

- (1) コミュニティセンターの創設者たちの国際的視野
- (2) 地方の農業高校とコミュニティ
- (3) コミュニティセンターのスタッフの待遇と施設の状況
- (4) 学校とコミュニティセンターの違い

第2章 創設当時のコミュニティセンターの学習活動

- (1) 国際的フォーラムと地域での暮らしの学習
—広島原爆問題の学習から—
- (2) 子どものためのプレーセンターと親の学習
- (3) 1944年のフィールドデングのコミュニティセンターの具体的活動内容

第3章 コミュニティラーニングセンターの継承発展

- (1) 戦後のコミュニティラーニングセンターの管理運営の危機と継承
- (2) 1990年代のコミュニティラーニングセンター

まとめ

はじめに

本論では、ニュージーランドにおけるコミュニティラーニングセンターの形成過程をフィールドデングの事例をとおして分析するものである。ニュージーランドでは、1930年代から40年代にかけて、地域の生活により深く密着したコミュニティラーニングセンターが生まれていくのであった。

この先駆的活動のひとつとして、フィールデングのコミュニティラーニングセンターがあったのである。フィールデングのラーニングセンターのディレクターをつとめたサマーセット氏は、ニュージーランドのコミュニティラーニングセンターの活動に大きな影響を与えていくのである。

ニュージーランドのコミュニティラーニングセンターは、地域の成人の学習施設であったが、日本の公民館の形成と異なるのは、教育行政の主導によって、政策的につくられていったのではなく、1930年代の農業高校の地域との連携活動、地域民主主義の形成ということから、学校と地域住民によってコミュニティラーニングセンターがつくられていくという特徴をもっている。

コミュニティラーニングセンターの管理運営は、施設が出来た当初から地域の学習者による評議会方式で行われていたのである。学習内容も民主主義や生活権の内容が大きな位置を占め、戦後まもない1947年には、広島原爆問題を素材にした反核の平和学習が積極的にフォーラム形式で行われていたのである。

中等教育が地域住民との関係で、より密接になっていくのは、地域民主主義形成での学校の役割と農業等の職業技術教育を重視した地域性が大きな理由になっている。地域の成人教育のセンターとして、中等教育学校が役割を果たしていくのも職業技術教育を重視した地域性とさらに、地域民主主義形成を大切にしたということから、歴史的必然性をもっている。

1930年代は、大恐慌というなかでの世界史的な背景のなかで、コミュニティラーニングセンターがニュージーランドで形成されていったことを直視する必要がある。そして、コミュニティラーニングセンターが生まれていく経過において、イギリスのケンブリッジのビレッジカレッジ、デンマークの国民高等学校、アメリカのウイスコンシンのコミュニティエデケーションなど国際的な地域成人教育施設の実践経験を学んでいるのである。

日本において、支配的には、国家による社会統治政策的な社会教育行政の形成であった。日本は、ファシズムへの移行、戦時国家体制のなかで、国民総動員体制の動員型の参加ということから地域の社会教育行政が整備されていったのである。

1930年代の世界大恐慌後の世界の国家独占的行財政施策という歴史的背景のなかで、日本は、ファシズム体制に突入していくが、地域成人教育の整備において、国際的視点からみるならば、民主主義とファシズムという対抗が国際的にあったことを見落としてはならない。

ニュージーランドのコミュニティラーニングセンターの成人教育は、1930年代の世界史的背景のなかで、地域民主主義の発展という意味をもっていたのである。本論は、日本の公民教育の館形成との比較成人教育の問題意識からニュージーランドのコミュニティラーニングセンターの事例を分析するものである。しかし、日本の分析は、本論の対象ではない。

本論で分析対象にしたフィールデングのコミュニティラーニングセンターは、図1にみられるように、ニュージーランドの北島の首都ウエリントン市から北部の学術都市パーマストン市の隣の町である。ニュージーランドの1948年頃の成人教育の地方は17の区域に分かれていたのである。

区域によっては、成人教育委員会があり、また、地域の成人教育のセンターがあったのである。

また区域には、複数の成人教育委員会や地域成人教育センターを有しており、機会的に区域に応じた成人教育の機関、施設があったのではなく、地域住民自身の学習運動によって組織されていったのである。

大学を有する都市は、6つの地域で、大学は全国に7つあった。労働者教育協会の組織があった都市は、オークランド、ウエリントン、クライストチャーチ、ダニーデンである。これらの都市は大学があったところである¹¹⁾。

労働者教育協会のあった都市では、大学との関係で成人教育が積極的に行われたのである。1938年の教育の改正法で大学が成人教育の場として公的に認められたのである。さらに、改正法では、国民的なレベルと地方レベルで成人教育の評議会を設置して、成人教育の制度を整備しはじめたのである。この1938年はニュージーランドの社会保障制度が制定され、高福祉の総合的な社会福祉、完全雇用が充実していく時期でもあった。

1935年に、はじめてニュージーランドで発足した労働党政権は、その後国民党との2大政党のもとに、戦後の1949年までの政権によって、高度な福祉国家の体制をつくりあげていったのである。成人教育も、この高度な福祉国家体制のなかで充実していったのである。高度な福祉国家の整備充実と成人教育の発達によって、ニュージーランド国民に、相互扶助性、公平・平等、総合性の人権と民主主義的意識が国民のなかに、定着していくのであった。

ところで、ニュージーランドで先導的にコミュニティーラーニングセンターがつくられたフィールデングの町は、パーマストンノース市というマッセイ大学を中心にした農業関連の研究機関が集中する学術都市の隣の町であった。このことから、先進的な農民が、農業に関する学習を積極的に大学の講義や実習などを受けやすいという条件をもっていた地域である。

1938年からフィールデングの地域成人教育センターの活動がはじまっているが、当時のニュージーランドの成人教育の行政は、教育省の指導のもとにおかれていた。しかし、地理的に異なる領域の管轄という多様性をもっていた。当時のニュージーランドの成人教育は、地方自治体、地方の教育委員会、小中等学校の地域委員会、職業高等学校委員会などによって実施されていたのである。

成人教育は、地域の経済発展、地域の生活や文化の向上の必要によって行われていたため、きわめて強い地域性をもっていたのである。また、成人教育を進めていくうえで、ボランティア組織が大きな役割を果たしたのも特徴である。教育省や地方自治体が財政的な援助をしていることも成人教育の発展にとって大切なことであった。

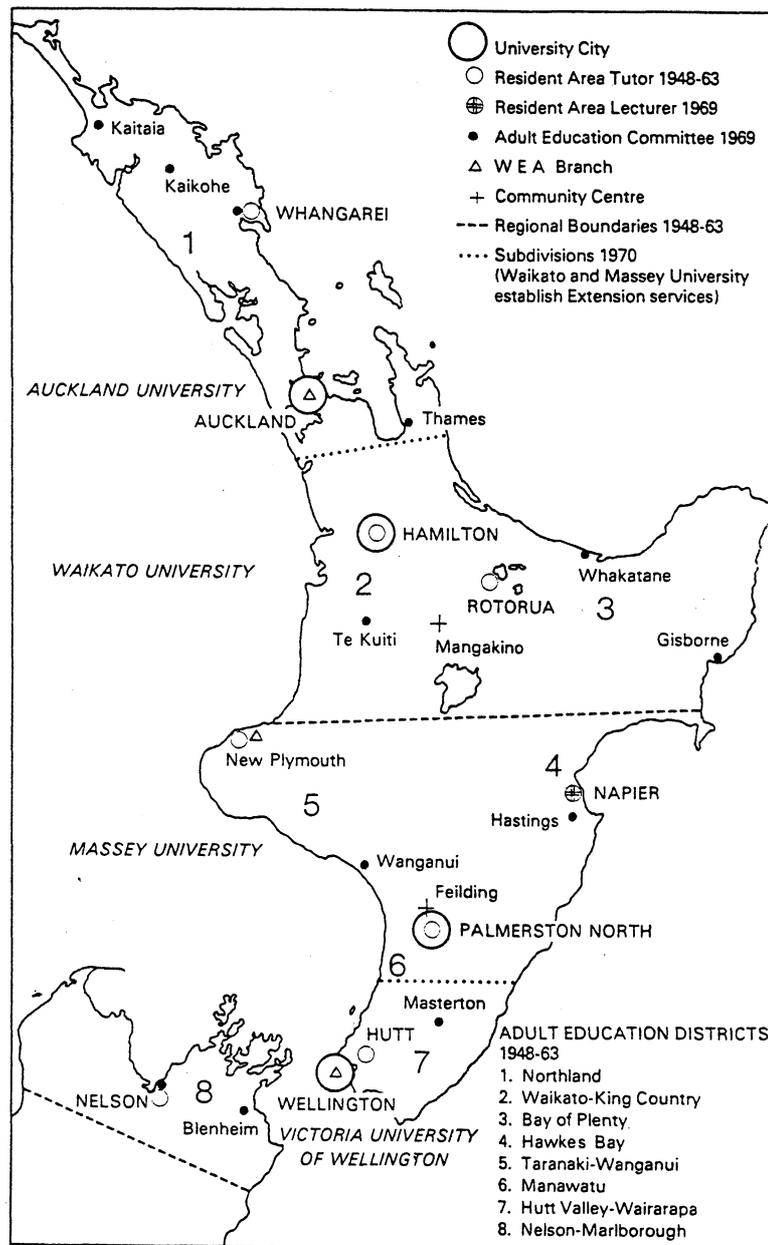
ニュージーランドの成人教育に関するフレームワークや政策を国民的なレベルでつくっていくために、成人教育評議会を国レベルでつくっていた。この評議会は、12名の構成からなっていたが、地方の代表から8名、学校教育、図書館、放送、大学からと、それぞれの成人教育に深く関わっていた分野の機関の責任者が参加していたのである。

成人教育の全国的な評議会は、地方や地域レベルのアドバイザーや地方の成人教育の発展のために意見を提示することなどを行うと同時に、ニュージーランドの成人教育の発展のために、地方が

らのレポートを特別に受けている。また、地域のコミュニティセンターのフルタイムのチューターや管理人のための地位や条件、最低賃金の基準などを示していた。

そして、国内や世界の成人教育の情報収集をし、成人教育施設のディレクターの会議、地方代表の会議、チューターの会議などを組織している。地方の成人教育の公的な機関と協力してチューターの養成もしていたのである。

行政的な事務は教育省と健康、農業などの省との連携が行われていた。このように成人教育を全



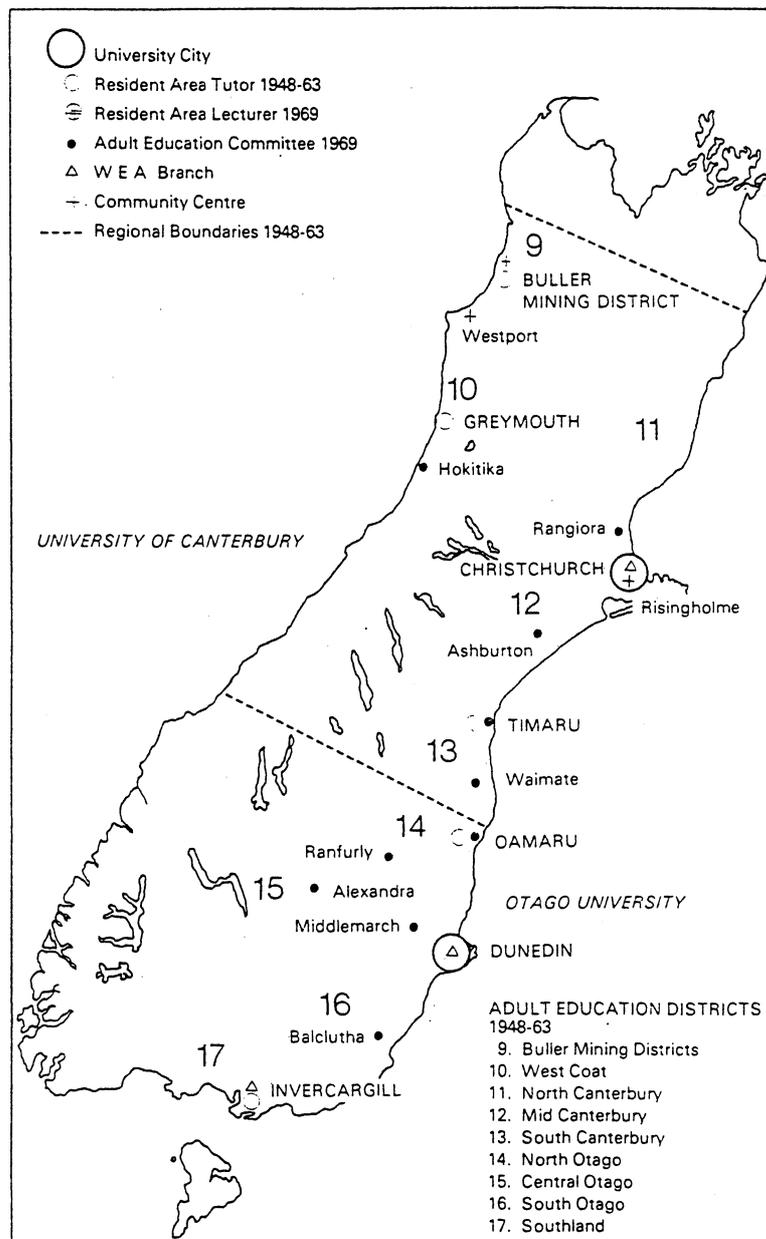
図(1) ニュージーランド北島の教育地方区成人教育施設 (1948年)

Structures and Attitudes in Newzealand Adult Education, 1945-75
Newzealand Council for Educational Research より

国的に推進していくうえで、国家の支援によって推奨されている成人教育評議会は大きな役割をしているのである。地方レベルの成人教育の組織は、教育を委せられている組織的機能と教育の構造や方法を考えていく側面と2つの組織的機能があった。

地方住民の学習要求に責任をもつためには、全国成人教育評議会とリンクして、より強力なアドバイザーが必要であった。それぞれの地方の現存している学習要求にたいして、サービスを提供するだけでなく、あたらしい要求や満足を充足するための探求が求められていたのである。

ボランティア組織は重要であるが、地域住民の要求を満たすためのボランティア組織がないところ



図(2) ニュージーランドの南島の教育地方区成人教育施設 (1948年)

Structures and Attitudes in Newzealand Adult Education, 1945-75
Newzealand Council for Educational Research より

もある。既存の組織による学習の組織ばかりでなく、あらたに組織化されていない住民の学習が必要であった。つまり、学習要求を顕在化させていない地域住民の成人教育も大切にしたのである。

この意味で地方の成人教育評議会を設けて、地域住民の学習要求の顕在化とその組織化に制度的にとりくむための整備をしたのであった。また、地方成人教育評議会は、地方の成人教育活動をコーディネーターすること、チューターを養成し、チューターと連絡することを仕事としている。

地方成人教育評議会のメンバーには、大学、学校委員会、地方の教育委員会のなかにある学校の視学、技術高等学校、コミュニティラーニングセンターの代表、ボランティア組織などの代表などによって構成されていたのである。

労働者教育協会のあるところでは、この委員の選出に大きな影響力をもったのである。地域の成人教育の推進ではコミュニティラーニングセンターが大きな位置を占めていた。コミュニティラーニングセンターのないところでは、チューターを成人教育評議会のもとに準備した。農村の学校の教師は、チューターとしての役割を果たしたのである。

成人教育の推進のための国家財政が積極的に支出され、地方の成人教育評議会単位にフルタイムのディレクターや事務上のスタッフ、チューターが配置されたのである。コミュニティセンターにもフィールドングを典型的事例として、ディレクターが配属されていくのである⁽²⁾。

以上のように1938年の教育改正法によって、国の成人教育制度が動きはじめていくのである。フィールドングのコミュニティラーニングセンターがつくられていく経過で、世界大恐慌というなかで、1935年の労働政権の誕生という時代的背景をみておく必要がある。

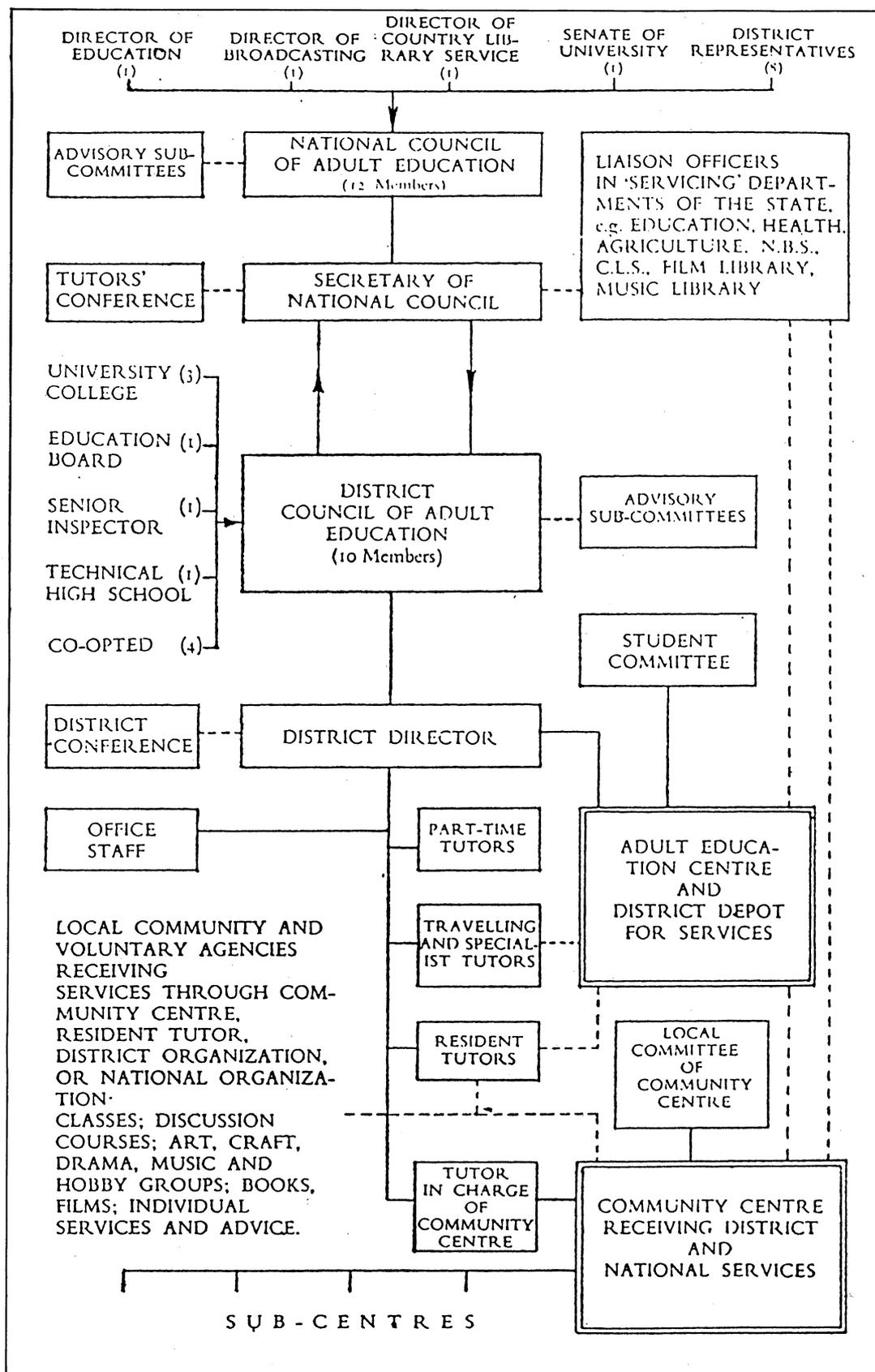


図 (3) Adult Education in New Zealand

Structures and Attitudes in Newzealand Adult Education, 1945-75
Newzealand Council for Educational Researchより

第1章 コミュニティセンターの創設過程と農業高校

(1) コミュニティセンターの創設者たちの国際的視野

フィールデングのコミュニティラーニングセンターは、ニュージーランドの地域での生産や生活との関連で、成人教育を推進していった典型的な事例である。このセンターは、フィールデング農業高校の校長ワイルド氏が地域住民の学習権を保障していくために、リーダーシップをとって出発したものである。具体的な実践の企画、運営、組織化は、1938年から10年にわたってサマーセット夫妻によって行われ、サマーセット夫妻の業績によって、コミュニティセンターの歴史的基盤がつけられたものである。

フィールデングのコミュニティラーニングセンターは、ニュージーランドでも古くからある地域学習センターである。このコミュニティラーニングセンターは、フィールデング農業高校による成人教育として構想されたものである。

このセンターは、農業高校内施設ではなく、街の中心に学習施設をつくり、フィールデングの街と、広大な農村地域を結びつけるために企画されたという特徴をもっていた。それは、遠隔地の成人教育のためのセンターとしての意味のなかに、街の住民と農民を統一していこうという考えの発想があったためである。

フィールデング農業高校の校長ワイルド氏は、1922年にフィールデング農業高校に赴任している。かれは、コミュニティに、新しい方法と見方を準備した。ワイルド氏は、地質学と化学の専門資格をリンカーン農業大学で取得し、クライストチャーチの教員養成学校で中等教員の資格をとっている。

サマーセット夫妻とワイルド氏は、カーネギ財団の援助で、世界の教育視察の経験をもったのである。かれらは、イギリス、デンマークなどのヨーロッパやアメリカ合衆国に訪問し、地域教育運動のリーダーとコンタクトをとったのである。サマーセット夫妻は、1936年、ワイルド氏は1937年に世界の農村の地域教育運動の状況を視察している。ワイルド氏が帰国した1938年に、フィールデングのコミュニティセンターの活動が出発している³⁾。

イギリスのケンブリッジのビレッジカレッジは、フィールデングのコミュニティセンターをつくっていくうえで参考にされている。創始者たちは、イギリスのケンブリッジのビレッジカレッジに滞在して、ニュージーランドの地域成人教育施設の構想をした。

そこで、農村教育の発展のためのビレッジ・カレッジの思想的基盤になったヘンリー・モリスの農村教育の全局面の変革、すべての人々の日常生活のなかに存在するコミュニティセンターによって、農村住民に学習機会を与えるということを学ぶのである。

そして、サマーセット氏は、スワストンやポッティサムスのビレッジカレッジを訪れ、長期にわたって、実際のビレッジカレッジを経営する責任者とも議論をしている。ビレッジカレッジの経営責任者たちは、デンマークの成人教育のための民衆高等学校に、関心を示していたのである。イギリ

